

## 令和 4 年度 うめわか高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室 事業計画・報告書

### 第 8 期最終目標

目指すべき将来像 「みんなでつくる『おたがいさま』の うめわか地域」

うめわか地域では、介護予防・認知症予防に地域全体で取り組み、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、活躍できる地域を目指す。

病気があっても、障害があっても、認知症があっても、住み慣れた地域で自分らしく年を重ねられるよう、医療・介護・福祉の関係機関や地域の関係団体等が連携し、ネットワークを築いていく。

子どもから高齢者まで、多世代を通じて、『おたがいさま』の気持ちで支え合ううめわか地域をつくっていく。

人口 (人)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	後期高齢者人口 (人)	高齢者人口に対する 後期高齢者人口 (%)
28,476	8,032	28.2%	4,654	57.9%

データは令和 5 年 4 月 1 日時点

### 今年度の到達点

新型コロナウイルス感染症のため、閉じこもり、外出や活動の自粛、医療の中断、地域の集いの場の休止等、高齢者の心身の低下を引き起こす課題が継続している。令和 4 年度も引き続き、高齢者一人ひとりへの個別支援と合わせて、地域でのつながりをつなぎなおしていく。

○フレイル※予防の柱である、栄養（食事）、口腔ケア、社会交流、運動に関して普及啓発が進むことで、介護予防につながり、元気な高齢者が増えている。

○身近な地域や、コロナ禍でも活動しやすい屋外に交流・通いの場が増え、住民同士のちょっとした支援や生活の便利情報をリーフレットとして可視化することで、フレイル予防や地域の支え合いの仕組みづくりが進んでいる。

○地域での様々な関連機関とのネットワークが拡充することで、支援を必要とする高齢者を早期に見だし、適切な医療や介護サービス、地域資源につながっている。

## <全センター・相談室共通業務>

### 1 総合相談支援

4 年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3 年度に引き続き、介護保険、高齢者虐待（セルフネグレクト含む）、医療、認知症等の相談が多い。保健・医療・福祉サービスをはじめとする適切な支援につなげる。</li> <li>○ 安否確認について、区民、関係機関等から高齢者の異変に係る相談・通報があった場合は、「緊急安否確認チェックシート」を活用し、速やかに状況把握、対応をする。</li> <li>○ 介護保険の相談時、介護予防の視点から、必要に応じて基本チェックリストを実施する。</li> <li>○ 医療・介護・福祉関連機関や民生委員・児童委員、ボランティア等、地域での様々な関係者とのネットワークを拡充する。</li> </ul>
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

結果	新規相談件数 1,170 件（前年度 1,070 件）	継続相談件数 2,792 件（前年度 2,379 件）
	<p>○相談件数は 3,962 件（内、新規 1,170 件）、令和 3 年度の 3,449 件と比較し、513 件増加した（コロナ前の令和元年度と比較し、1,177 件増）。相談内訳では、介護保険や虐待、医療、認知症に関する相談が増加している。</p> <p>○申請代行件数は、介護保険 617 件（令和 3 年度 522 件、95 件増加）、高齢者福祉課 207 件（令和 3 年度 178 件、29 件増加）。医療・介護・福祉関連機関と連携し、適切な支援につないだ。</p> <p>○基本チェックリスト 29 件実施。</p> <p>○地域密着型サービス運営推進会議 出席 8 回、書面開催 9 回、計 17 回。</p>	

## 2 権利擁護

4 年度の 取組の視点	<p>○高齢者虐待ハイリスク世帯の早期発見、虐待の芽の段階での気づきの視点に留意し、相談支援を行う。発見後は、関係機関と連携し、緊急性を逃さず迅速に対応する。</p> <p>○高齢者虐待の防止において、積極的に関係機関への研修等による普及啓発およびネットワーク構築をすすめ、早期段階での通報・支援につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所や関係機関向けに、権利擁護に関する勉強会・研修を年 4 回開催する。</li> </ul> <p>○消費者被害防止のため、地域住民に対する普及啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民向け消費者被害および特殊詐欺被害防止の講座を年 4 回開催する。</li> <li>・ 広報誌にて掲載する。</li> </ul>	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） 9 件（前年度 10 件）出席者延べ 106 人（前年度 72 人）	権利擁護継続相談件数 144 件（前年度 111 件）
	<p>○高齢者虐待対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者虐待通報 34 件、内虐待認定 25 件（セルフネグレクト含む。虐待認定率 73.5%）。養護者による虐待 23 件、セルフネグレクト 2 件。養護者による虐待の種類は、身体的虐待 15 件（65.2%）、心理的虐待 15 件（65.2%）、経済的虐待 1 件、ネグレクト 4 件となっており、重複している事例が多かった。被虐待者の 80%は女性、また虐待者の 60.9%は男性だった。</li> <li>・ 通報時、関連機関と連携し事実確認及び高齢者虐待対応を行った。</li> <li>・ 年度内での終結は 2 件、他 23 件は継続支援をしている。</li> </ul> <p>○高齢者虐待防止ネットワーク</p> <p>① うめわか権利擁護勉強会 4 回：43 名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアマネジャー等医療・介護・福祉関連機関参加者 15 名（実人数 9 名）</li> </ul> <p>高齢者虐待や権利擁護に関する弁護士による事例検討会を開催した。終了時のアンケートでは「虐待の早期発見を意識する」「包括への相談タイミング等参考になった」「引き出しを増やすことができ、より早期に課題に気づくことができる」「虐待や消費者被害、成年後見などに関して、より早期に相談共有していくことが、重要であると気づいた」との意見あり。</p> <p>年度末アンケート（8 名に実施）では、「意識変容につながった」6 名、「事例を見返した」2</p>	

	<p>名、「利用者や家族に情報提供できた」4名、「包括に通報しようと思った」2名、「高齢者虐待通報につながった」1名だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆（成果）意識変容につながっている人が多い。また事例を見返したり、情報提供したり、実際に虐待通報をした人もおり、行動変容につながっている。早期のうちに適切な場所へ、適切な連携が取れるように周知を進めることができた。</li> </ul> <p>② 地域住民向け講座 5回：63名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費生活トラブル防止講座（講師：全国消費相談協会） 1回</li> <li>・特殊詐欺等被害防止ミニ講座（地域住民、自主グループ） 3回</li> <li>・高齢者虐待についての勉強会（見守り協力員） 1回</li> <li>・「身体的虐待だけではない」「もっと、小さなこともっと注意を払う必要があると思った」など、虐待通報の重要性、新たな視点や気づきの大切さを確認できたとの意見が確認できた。</li> </ul> <p>③ 男性介護者教室ケアMEN すみだ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8高齢者支援総合センター合同で開催。うめわか高齢者支援総合センターは、6月シルバープラザ梅若福祉機器展示室にて「楽になる介護技術」を担当、7名参加。</li> <li>・男性介護者教室には、相談対応時等で5名に声掛けをし、内2名が参加、1名は継続参加につながった。男性介護者の負担軽減につながった。</li> </ul> <p>④ みまもりだよりにて、消費者被害について注意喚起 1回：4,000部（8月号）</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

4年度の取組の視点	<p>○医療機関、福祉機関等の関係機関との連携体制を構築し、地域のケアマネジャーと関係機関の連携を支援する。</p> <p>○地域ケア個別会議から、個別の課題のみならず地域課題（医療との連携、生活支援体制整備、ケアマネ支援等）を抽出し、自立支援・重度化防止を目指したプランの作成を支援する。</p> <p>○地域の主任ケアマネジャーとの連携協働を図り、ケアマネ支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー向け研修・事例検討会を年5回開催する。</li> <li>・うち1回は地域の主任ケアマネジャー向け研修及び情報交換会とする。</li> </ul>	
結果	<p>ケアマネジャー向け研修 4回（前年度 4回）</p> <p>他、専門職（ケアマネジャー含む）研修 2回（前年度 3回）</p> <p>参加者延べ 91人（前年度 115人）</p>	<p>事例検討会 4回（前年度 4回）</p> <p>参加者延べ 15人（前年度 23人）</p>
	<p>○ケアマネジャー向け研修</p> <p>① 主任介護支援専門員研修及び情報交換会（6月開催、9名参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うめわか圏域地域ケア個別会議より把握できたケアマネジメント、自立支援・介護予防に関する課題と地域課題について主任介護支援専門員と共有。令和4年度の地域ケア計画の取組や研修について、主任介護支援専門員が主体的に参画することを確認した。</li> <li>・年度末のアンケートでは、「他事業所の主任介護支援専門員と交流できた」「地域ケア個別会議で抽出された課題とその重要性の再確認、地域課題の認識ができた」「主任介護支援専門員として、地域に関わっていくという意識付けができるようになった」との意見があった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆（成果）令和4年度の各種研修及び地域ケア推進会議において、主任介護支援専門員</li> </ul>	

が主体的に参画するとともに、ネットワーク構築及びファシリテーターを担うことにつながった。

② うめわか地域介護支援専門員研修

・研修「認知症のある独居高齢者が、地域で生き活きと暮らしていくためのケアマネジメント」（8月開催、参加10名）。終了後アンケートでは、「十分理解できた」「理解できた」及び「十分活用できる」「活用できる」とも、100%の回答だった。

・研修「歯科衛生士から学ぶ！ケアマネジメントに活かせる口腔ケアの基礎知識と口腔アセスメント」（10月開催、16名参加）。終了後アンケートでは、「十分理解できた」「理解できた」及び「十分活用できる」「活用できる」とも、100%の回答だった。

・研修「みんなで考えよう！在宅療養」（12月開催、8名参加）。終了後アンケートでは、「十分理解できた」「理解できた」及び「十分活用できる」「活用できる」、本人の意思決定支援を行いながら在宅療養支援ができるかは「しっかり行える」「行える」100%、医療機関との連携について「十分連携できる」「連携できる」100%の回答だった。

◆（成果）4回の研修に延べ43名参加（実人数28名）。年度末に年間アンケートを実施。「研修で学んだことは日々の業務やケアマネジメントに活用できたか？」との質問に、「十分活用できた」「活用できた」で83%の回答を得た。

「自分の意識変容につながった」19名、「利用者や家族に情報提供できた」7名、「多職種との連携をうまく行うことができた」6名、「資料を見返した」1名、「ケアプランに反映できた」1名だった。意識変容や行動変容につながっていることが分かった。

（事例）・訪問歯科について説明し、利用につながった。歯の治療を行うことができた。

・本人の健康不安や医療に対する意向を聞き取った上で、スムーズに訪問診療に切り替えることが出来た。

○他、専門職（ケアマネジャー含む）研修

① うめわか権利擁護勉強会4回（弁護士との事例検討会）、15名参加。（権利擁護にて前掲）

② 福祉機器展示室研修会2回33名参加。

・研修「生活から考えよう！褥瘡と福祉用具」（7月開催、18名参加）

・研修「生活から考えよう！お風呂の住環境」（11月開催、15名参加）

◆（成果）2回の研修に延べ33名（実人数27名）。年度末に年間アンケートを実施。「十分活用できた」「活用できた」90%の回答。

「自分の意識変容につながった」11名、「利用者や家族に情報提供できた」9名、「資料を見返した」10名、「利用につながった」1名だった。意識変容や行動変容につながっていることが分かった。

（事例）・浴室の段差解消を提案し、利用につながった。

・OHスケールに基づいたマットレス・エアーマットの選定を心掛けるようになった。

・身体に発赤ができた時点で訪問看護や福祉用具事業者と情報を共有し、支援方針を検討するにあたり、マットレスの選定を提案することができた。

#### 4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

4年度の 取組の視点	<p>○居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対し、研修等により、介護予防ガイドラインの徹底を図る。</p> <p>○介護予防プランでは、適切なアセスメントを実施し、利用者が大切に生きてきたこれまでの暮らしをまた送れるよう目標を設定する。利用者のセルフマネジメントを推進し、介護予防サービスのみならず、地域資源を活用した自立支援型プランを作成する。</p>	
結果	プラン件数（自己作成） 1,300 件（前年度 1,322 件）	プラン件数（委託） 2,355 件（前年度 2,302 件）
<p>○居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して、担当者会議や地域ケア個別会議等を活用し、介護予防ガイドラインや自立支援型プラン作成の周知を行った。</p> <p>○自己作成の介護予防プランでは、新規作成時必ずセンター内多職種で検討し、セルフマネジメントや多様なサービス主体（自主グループ等地域資源）を盛り込んだ自立支援型プランを作成した。</p> <p>○訪問型サービス・通所型サービスとも、従前相当のみならず、必要に応じて通所Cの利用につなげた。また地域資源である自主グループにつなげたケースもあった。</p>		

#### 5 認知症支援

4年度の 取組の視点	<p>○認知症の人とその家族等が、できる限り住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、認知症総合支援事業を「予防」と「共生」の視点で進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症普及啓発事業(認知症サポーター養成講座含む)を年8回開催する。</li> </ul> <p>○認知症の人やその家族に早期に関わり、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築するため、認知症アセスメント訪問及び認知症初期集中支援チームによる支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症アセスメント訪問 10 回</li> <li>・ 認知症初期集中支援チームによる支援 3 件</li> </ul> <p>○認知症家族介護者教室を開催し、家族や支援者の介護負担軽減に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症家族介護者教室を年6回以上開催する。</li> </ul>	
結果	認知症サポーター数 開催数 8回 272人 (前年度 開催数 11回 235人)	家族介護者教室 6回 (前年度 11回) 参会者延べ 40人 (前年度 71人)
<p>○認知症普及啓発事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症普及啓発事業（認知症サポーター養成講座含む）12回開催、310名参加。</li> <li>・ 認知症普及啓発事業（専門）3回開催、59名参加。</li> <li>・ 地域住民や区内介護事業所等に向け、認知症サポーター養成講座以外にも寸劇を交えた講演会やもの忘れ相談等を実施した。栄養や難聴、認知症の方への対応など多様なテーマを設定し実施し、講義後のアンケートから、約84%の方が「とても良かった」「良かった」と回答があり、各講義の理解は得られたと考える。</li> </ul> <p>◆（成果）事業の参加者は、圏域全体からの参加が見られ、当事業の普及啓発は進んでいる。地域により参加者数の格差がみられるため、実施場所や開催日時、オンラインなど、より普及啓発を促進するための工夫は必要である。区報を活用した広報活動により、圏域外の方の参加もあり、認知症への興味関心の高さを感じた。「予防」「共生」の視点や、地域ニーズや社会の動向を鑑み、テーマ設定や講義内容も精査していく必要を感じた。</p>		

	<p>○認知症アセスメント訪問や認知症初期集中支援チームによる支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症アセスメント訪問 9 件、認知症初期集中支援チーム員による支援 3 件。</li> <li>・認知症の方やその家族等からの総合相談等の中で、センター相談室の相談員と連携し、アセスメント訪問や認知症家族介護者教室への参加勧奨、必要な方には認知症初期集中支援チームの介入を実施した。また、チーム員や相談員からの支援に限らず、中村病院への受診勧奨や中村病院の専従相談員との連携により、早期対応を行った。</li> </ul> <p>◆（成果）認知症初期集中支援チームによる支援により、1 名は継続的な医療や介護サービスにつながった。チーム員の関わりが終了した後も、成年後見制度利用につなげ、より安心した生活の継続ができています。家族や関係機関との連携を通し、早期診断・早期対応や見守り体制等の調整等を行うことができた。</p> <p>○認知症家族介護者教室開催による家族や支援者の負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症家族介護者教室は 6 回開催し、参加者との座談会だけでなく講義も取り入れ、認知症の理解を深めるための働きかけを行った。講話を入れた家族会と座談会形式の家族会では、参加人数の差がみられ、講話を入れた会の参加者が多かった。</li> <li>・家族会の周知については、2 ヶ月に 1 度程度「さくらんぼたより」を発行、家族会の記事を掲載し、既家族会参加者や認知症普及啓発事業参加した方の中で資料等の送付希望の方などに向け、郵送やポスティング等を行い、家族会の周知や参加を促した。「さくらんぼたより」を見て参加される方は多くなく、周知活動の効果は得られていないが、家族会の開催告知だけでなく、認知症に関連した記事を掲載し、普及啓発にもつなげていく。</li> </ul> <p>◆（成果）家族会のアンケート結果より、「とても良かった」「よかった」と全員が回答、負担軽減の一役を担えたと考える。また、「参加者の話を聞いてほしい」「認知症の方への接し方について学びたい」と回答する方も多く、参加者の方々との交流等を通し、息抜きしていただくことを目的とした座談会方式での家族会の重要性を感じた。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 6 地域ケア会議

4 年度の 取組の視点	<p>○地域ケア個別会議において、ケアマネジメントの資質向上を図るとともに、個別課題から地域課題を抽出する。年度末には課題整理表にまとめ、次年度の地域ケア推進会議につなげていく。</p> <p>○地域住民及び医療・介護・福祉等の関連機関に対して、うめわか圏域地域包括ケア計画の周知を図るとともに、地域ケア推進会議等において各推進事業の目標を共有し具体策の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア個別会議を年 6 回開催する。</li> <li>・地域ケア推進会議を年 5 回開催する。</li> </ul>	
結果	地域ケア個別会議 12 回（前年度 9 回）	地域ケア推進会議 6 回（前年度 8 回）
	<p>○地域ケア個別会議 12 回開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、主任介護支援専門員、介護支援専門員、看護師、社会福祉士、介護福祉士、歯科衛生士、生活支援コーディネーター、民生委員・児童委員、サービス事業者、社会福祉協議会、地域住民、利用者家族等、延べ 87 名参加。</li> <li>・主目的「介護予防」10 件、「支援困難ケース」2 件</li> </ul> <p>【介護予防】</p>	

	<p>・各ケースについて個別課題及び地域課題を把握し、支援方針を決定した。年度末には担当介護支援専門員にモニタリングを行い、①支援方針に基づいた支援を実施できたか、②支援の実施で利用者に行動変容が見られたか、③個別会議での学びがケアプランに反映されているかを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆（成果）多職種の助言により、ケアマネジメント支援や利用者の行動変容につながった事例があった。10 事例中 3 事例。        （事例）94 歳女性、要支援 2。通っていた整骨院が閉院し、閉じこもりがちな生活を送っていたケース。当初デイサービスの利用は拒否していたが、本人の好む趣味活動（折紙）も行うリハビリ型デイサービスにつなげることにより、本人は歩行の大切さに気付き、前向きな気持ちになるとともに、ゴミ出しや近隣への散歩に行くなど行動変容がみられている。</li> <li>◆（成果）令和 4 年度「地域ケア個別会議課題分類・整理表」を作成。地域課題について、「介護支援専門員あるいはケアマネジメントに関する課題」「自立支援・介護予防（重度化防止）に関する課題」「地域の社会資源・自立促進要因の把握に関する課題」「共生社会・多世代交流等地域づくりに関する課題」の各課題に整理できた。        令和 3 及び 4 年度「地域ケア個別会議課題分類・整理表」で挙げられた地域課題は、令和 4 年度包括的継続的ケアマネジメントや生活支援体制整備事業、推進事業「ストップ！フレイル」「ちよこっとサービス応援団」で地域課題解決に取り組んだ。</li> </ul> <p>【支援困難ケース】</p> <p>・各ケースについて参加者間で情報を共有。課題に対して検討を行い、支援方針を決定した。多職種の支援者に加え、地域住民が会議に参加することで、認知症への理解や地域での見守り体制の構築ができた。</p> <p>○地域ケア推進会議 6 回開催、107 名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和 3 年度地域ケア個別会議で挙げられた地域課題を抽出、整理。11 名参加。</li> <li>② 地域ケア推進会議 5 回開催。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療・介護」1 回、23 名参加。（「N プロジェクト」にて後掲）</li> <li>・「住まい・防災」2 回、計 28 名参加。（「いのちを守るネットワーク事業」にて後掲）</li> <li>・「生活支援・介護予防」1 回、20 名参加。（「ちよこっとサービス応援団」にて後掲）</li> <li>・「自主グループ交流会」1 回、20 名参加。（「ストップ！フレイル」にて後掲）</li> </ul> </li> </ul>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 7 生活支援体制整備事業

<p>4 年度の 取組の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民や関連機関とともに、生活支援に必要な社会資源の情報収集及び可視化をする。地域資源リーフレットの作成や更新を行う。</li> <li>○商店との顔の見える関係づくりを強化し、高齢者の生活支援ネットワークを充実させる。配達の有無、見守り機能等の情報収集をする。</li> <li>○買い物ニーズのある地域に対して、様々なサービス提供主体（移動販売や配達等）とのマッチングに取り組む。また移動販売の立ち寄り拠点を増やし、地域での緩やかな見守りや交流の場につなげる。</li> <li>○地域における担い手等を発掘し、ボランティアグループの立ち上げ支援や互助活動につなげる。</li> </ul>
------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	○交流・通いの場の立ち上げ支援を行う。	
結果	交流・通いの場 130 件（前年度 127 件）	
	<p>○社会資源の情報収集および可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関するリーフレット「うめわか周辺 美味しい物マップー今日の食事が明日のあなたを作りますー」（「ちょこっとサービス応援団」にて後掲）</li> </ul> <p>○商店との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関するリーフレット作成に当たり、「ちょこっとサービス応援団」で周辺の飲食店 40 店舗に聞き取りを実施。店の基本情報の他、生活に必要な配達や持ち帰りについての情報収集をした（うち掲載許可：35 店舗）。</li> <li>・移動販売「とくし丸」の立ち寄り拠点を確認し、必要な高齢者に情報提供した。主要な 6 か所の駐車場所は、緩やかな見守りや交流の場にもなっており、食のリーフレットに駐車場所を明記したことで情報提供しやすくなった。</li> </ul> <p>○ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うめわかクラブ」の後方支援、開催後の振り返りの会に職員が同席、体験ブースの配置、金銭管理等について話し合いをした（計 7 回）。</li> <li>・裁縫ボランティアを継続的に募集し、活動を支援（新規 4 名、計 11 名が活動）。</li> <li>・「ちょこっとサービス応援団」では地域ケア推進会議とミーティングに延べ 77 名・実人数 22 名が参加し、食に関するリーフレットを作成。</li> </ul> <p>○交流・通いの場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外で活動できる運動の場の 3 ヶ所目として、通いの場の少ない墨田 4 丁目に自主グループの立ち上げを目指し、ウォーキングイベント「荒川河川敷歩こう会」を開催（計 4 回）。令和 5 年度に自主グループ化を予定している。</li> <li>・令和 3 年度立ち上げ支援した自主グループのうち 3 ヶ所について、必要時に継続支援を実施（青空体操会、手芸クラブ、ハッピー北公園）。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「イスからつながるプロジェクト」（チームうめわか）の後方支援を行い、どなたでも座れるイスが 42 ヶ所 59 台設置されている。</li> </ul>	

## 8 見守りネットワーク事業

4 年度の 取組の視点	<p>○みまもりだより配布時には町会、自治会、老人クラブ、民生委員・児童委員、店舗等のあらゆる関係機関に対し、地域住民について情報の共有図り、ネットワーク構築をする。</p> <p>○上記の取組等で得た情報や区内区外転居の情報を元に、地域で孤立が心配される高齢者や重層的な課題を抱えている可能性が高い世帯等を中心に実態把握を実施し、適切な支援や地域資源につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実態把握 600 件</li> </ul>	
結果	実態把握調査訪問 705 件（前年度 602 件）	安否確認 3 件（前年度 9 件）
	<p>○ネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みまもりだよりは、毎月地域団体のほか、圏域内すべての介護サービス事業所、医療機関、薬局</li> </ul>	



等 227 か所に配布し、ネットワークを構築している。毎号 4000～4500 部発行。

・コロナ禍で地域団体等の活動が休止している中、活動しているグループにはみまもりだよりの広報等見守り講座を 105 回（自主グループ 103 回、自治会 1 回、老人クラブ 1 回）開催した。

（感染防止のため、短時間で開催した）

・地域住民や関係機関との見守りネットワーク構築のための活動（会議含む）を 90 回行った。

・その都度困りごとや活動状況等の情報交換をしたことで、多くの相談につながった。

○実態把握調査等

・感染防止対策を講じながら訪問を実施。令和 4 年度の実態把握件数は 705 件、前年度より 103 件増となっている。

・相談窓口や地域関係機関等からの相談件数は、3,392 件（令和 3 年度 3,326 件、66 件増加）

○安否確認

・安否確認については 3 件あり、「緊急安否確認チェックシート」を使用し、各関係機関とも連携し、状況の把握や対応を速やかに行った。

<圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- |                              |             |
|------------------------------|-------------|
| 1… 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実   | 2… 介護予防の推進  |
| 3… 介護サービスの充実                 | 4… 医療との連携強化 |
| 5… 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 |             |

ちよこつとサービス応援団		施策の方向性：1, 2
課題（現状）	<p>○高齢者を含む世帯の内、高齢者のみの世帯（ひとり暮らし及び高齢夫婦等高齢者のみ）が7割と多い。</p> <p>○外出同行、見守り、声掛けを必要とする人が多い。</p> <p>○鉄道やバスの利用が不便で、買い物や外出しづらい地域がある。</p> <p>○認知症や移動に支援が必要などの理由から、集いの場に参加できない人がいる。</p> <p>○スーパーなどの閉店により、買い物ができる場が減っている地域がある。一方で地域の商店、住人、ボランティアの取組によって、買い物や交流できる新たな地域資源が創出した。</p> <p>○見守りについて、組織化されている地域・集合住宅がある。</p>	
4年度 の取 組 み の 指 標 と 方 向 性	到達点	<p>①-1 住民同士の支え合い（ちよこつとサービス）や生活便利情報をリーフレットにて可視化することで、支え合いの仕組みづくりや見守りのネットワークが促進される。</p> <p>2 地域の担い手が生き生きと活躍できる。</p> <p>② ボランティアをしている人やボランティア希望者が増えている。</p>
	投入資源 （人・場所 等必要な資 源）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者支援総合センター職員 3名、高齢者みまもり相談室職員 1名</li> <li>・ 地域住民、地域の担い手、ボランティア、町会・自治会・老人クラブ、商店、民間企業、NPO等</li> <li>・ シルバープラザ梅若等</li> <li>・ チラシ、リーフレット等の印刷代</li> </ul>
	活動（4 年度 の取 組 内 容）	<p>①-1 地域に既にある生活便利情報の把握や新たな仕組みづくりを行うため、住民や関係機関とともにミーティングを年3回以上開催する。</p> <p>2 買い物ニーズのある地域に、交流の場として移動販売の立ち寄り拠点の拡充につなげる。</p> <p>3 地域住民や関連機関とともに、生活支援に関わる便利情報をまとめ、リーフレットを作成する。（500部）</p> <p>②-1 地域住民向けイベント時にボランティアの普及啓発及びボランティア希望者の把握を行う。</p> <p>2 裁縫ボランティアを確立し、交流・通いの場として定期的に集まれるよう支援する。</p> <p>3 シルバープラザ梅若ゆうゆう館や地域の事業所と連携して、園芸ボランティアグループの立ち上げ支援を行う。</p> <p>4 3年度ボランティアにより自主化した「うめわかクラブ」の後方支援を行う。</p>
	活動に 対 する 実 績 の 指 標	<p>①-1 ミーティングの開催回数、参加人数、参加者の多様性（様々な属性の人の参加）、住民同士の支え合いの内容</p> <p>2 移動販売の立ち寄り拠点の数、利用者数、利用者の満足度</p> <p>3 リーフレットの配布数、周知度、活用度</p> <p>②-1 すでに活躍しているボランティアや新規のボランティア希望者の数</p> <p>2 ボランティアとのミーティングの開催回数や参加人数、活動内容</p>

	結果の評価方法	<p>① - 1 住民同士の支え合いで手助けをしている人にアンケートやヒアリングを行い、生きがいや役割を持つことにつながっているか確認する。</p> <p>2 移動販売の立ち寄り拠点数の確認、利用者への満足度・意向調査をする。</p> <p>3 リーフレットの配布数、認知度、活用度や満足度を確認する。</p> <p>② - 1 ボランティア数やボランティア希望者数を確認する。</p> <p>2 ボランティアを行っている人にアンケートやヒアリングを行い、生きがいや役割を持つことにつながっているか確認する。</p>
実施結果	結果（事業の実績）	<p>① 住民同士の支え合い、生活支援の便利情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちよこっとサービス応援団」として、地域住民、見守り協力員、民生委員・児童委員、医療・介護・福祉関連機関等が参加。地域ケア推進会議を1回（7月）、ミーティングを6回（5,9,11,1,2,3月）開催、延べ77名、実人数22名参加。</li> <li>・参加者が主体となり、食に関するリーフレット「うめわか周辺 美味しいものマップー今日の食事が明日のあなたを作りますー」を作成。生活に必要な配達や持ち帰りなどの情報も含め35か所の飲食店情報の他、移動販売「とくし丸」の情報、低栄養やフレイル予防に関する内容も盛り込んだ。</li> </ul> <p>② ボランティアの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民向けイベント「梅若まつり」（シルバープラザ梅若主催・10月開催）の中で、ボランティア活動の紹介としてうめわかクラブと裁縫ボランティアの活動を展示、3日間で121名の来室者に対し計10名の裁縫ボランティアが説明を行った。</li> <li>・「梅若まつり」および自主グループの体力測定会にて（10月、3月）、「興味・関心チェックシート（アレンジ版）」を実施。46名の参加者のうち7名が「ボランティア活動をしている」、2名が「興味がある」と回答。</li> <li>・裁縫ボランティアは計11名（うち新規4名）が活動。区内江戸小紋染工場から地域貢献として提供を受けた浴衣生地を活用し、ティッシュケースカバー・バッグ・手ぬぐい（打ち水用や運動時に利用）等を製作し、イベントで配布している他、施設の椅子カバーや自主グループ「うめわかクラブ」の小物づくり体験でも活用している。</li> <li>・裁縫ボランティアの中から、自主グループ「手芸クラブ」の活動継続を支援。</li> <li>・通いの場「うめわかクラブ」の後方支援。ボランティア計8名、延べ58名が参加。開催後の振り返りの会に職員も同席（計7回）。</li> <li>・東白鬚公園主催のイベントへのボランティア参加を地域に働きかけた。「むかしあそび体験」ボランティア13名、「クリスマスイベント」ボランティア11名参加。</li> </ul>
	成果（到達点の達成）	<p>① 住民同士の支え合い、生活支援の便利情報</p> <p>1 - 「ちよこっとサービス応援団」で、リーフレット作成をした団員にアンケートを実施、14名が回答。活動に参加し「非常に満足」「まあ満足」が各7名、リーフレットについては「非常に満足」11名・「まあ満足」3名と高い満足度を得ている。自分の意見を伝えられたかは「積極的にできた」と「まあまあできた」が85%以上で自律性を持ち活動できている。メンバーの協力体制については14名全員が「協力しあっていた」と回答、相互信頼関係が構築された。また感想では「だんだん楽しくなってきた、毎回メンバーに会えるのが楽しみ」「皆様の活発な行動に大変感</p>

	<p>動した。それが元気の源だと思い、私もそうありたいと思った」など生きがいや役割を持つことにつながった。</p> <p>2－移動販売「とくし丸」の立ち寄り拠点は、昨年度と同様 21 か所を維持しており、主な駐車場所 6 か所をリーフレットに掲載したことで情報提供しやすくなった。移動販売について、利用者から「近くに来てもらえるので助かる」、民生委員から「見守りにもなっている」などの声も聞かれ、地域の重要な拠点となっている。</p> <p>3－リーフレットは 1000 部印刷、令和 5 年度から配布。</p> <p>② ボランティアの普及啓発</p> <p>1－裁縫ボランティアは個別に活動する他、手芸クラブの中で複数人一緒に活動することも開始。また梅若まつりでは、裁縫ボランティアと作品を受け取った方々が直接交流する機会を設け、作品の感想やボランティアの想いを伝え合うことができた。</p> <p>東白鬚公園主催の子ども向けイベントに地域のボランティアをつなげた。ボランティアとして参加した高齢者からは「このような機会は珍しく、子どもたちが可愛かった」「子どもと触れ合えて楽しかった」「またこのような機会があったら参加したい」との意見が多く、むかしあそび体験や工作などを通じ、生きがいや役割を持つことにつながった。</p> <p>ボランティアを希望しているが活動を開始していない高齢者については、今後活動できるよう支援していく。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ストップ!フレイル		施策の方向性：2
課題（現状）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主グループなどの集いの場に偏りがある。歩いて行ける範囲で、交流・通いの場が必要である。</li> <li>○交流・通いの場のうち「話す場」が少ない。</li> <li>○栄養に課題のある高齢者がいる（低栄養、栄養の偏り等）。</li> <li>○プチデイサービス卒業後の受け皿として、適した運動強度の場が必要である。</li> <li>○すでに活躍している介護予防リーダー、介護予防サポーターが自主グループを複数担当しており、負担が大きくなっているため、新しい担い手が必要である。</li> <li>○男性は地域との交流が少ない傾向にある。</li> <li>○新しく墨田区総合運動場（堤通 2 丁目）ができた。</li> <li>○イスからつながるプロジェクトにより、地域に誰でも座れるイスが増え、活用されている。</li> </ul>	
4 年度の取り組みの指標と方向性	到達点	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新しい交流・通いの場が増える。また、既存の自主グループにおいては、コロナ禍でもそれぞれの形で活動することができる。自主グループや担い手の横のつながりができることで意欲が向上する。</li> <li>② 男性の交流の機会や居場所が増える。</li> <li>③ フレイル予防について、関心のある住民が増える。</li> </ul>
	投入資源（人・場所等必要な資源）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者支援総合センター職員 3 名、高齢者みまもり相談室職員 1 名</li> <li>・ 地域住民、自主グループの担い手、医療・介護・福祉関連機関等</li> <li>・ シルバープラザ梅若（ホール、会議室）、公園等</li> <li>・ チラシなどの印刷費、イベント参加の記念品（ボランティアの手作りの品等）</li> </ul>
	活動（4 年度の取）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①－1 自主グループ交流会を開催する。</li> <li>2 交流・通いの場の新規立ち上げと継続支援を行う。</li> </ul>

組内容)	<p>3 通所 A (プチデイサービス) 利用者による自主グループ立ち上げ支援を行う。</p> <p>4 運動の場リーフレットの更新 (適宜)、配布 (500 部) し、フレイル予防の普及啓発のツールとして活用する。</p> <p>②-1 すでにある男性の交流・集いの場の情報収集をし、可視化する。</p> <p>2 男性中心のフレイル予防普及啓発イベントやミーティングを開催し、新たな自主グループの立ち上げ支援を行う。</p> <p>③ 地域住民向けイベントやミニ講座を開催し、フレイル予防の普及啓発を行う。</p>
活動に対する実績の指標	<p>①-1 自主グループ交流会の参加グループ数、参加人数、交流会内容</p> <p>2 交流・通いの場の総数と新規立ち上げた自主グループの数、活動内容</p> <p>3 運動の場リーフレットの配布数、認知度、活用状況</p> <p>②-1 男性中心の自主グループ数、活動内容</p> <p>2 男性中心のフレイル予防普及啓発イベントやミーティング回数、参加人数、イベント内容</p> <p>③-1 地域住民向けイベントの参加人数、アンケートでの意向調査</p> <p>2 地域住民向けフレイル予防普及啓発ミニ講座の開催回数、参加人数</p>
結果の評価方法	<p>①-1 自主グループ交流会でアンケートを行い、満足度及び生きがいや役割を持つことにつながったか確認する。</p> <p>2 自主グループ活動により心身の状況が改善した事例報告。</p> <p>3 運動の場リーフレット、ウォーキングマップのヒアリングを行い、認知度、活用度を確認する。</p> <p>②-1 男性中心の既存及び新たに立ち上がったグループに対し、アンケートやヒアリングを行い、心身状況の改善や行動変容につながっているか確認する。</p> <p>2 男性中心のイベントやミーティング時アンケートやヒアリングを行い、満足度や関心度を確認する。</p> <p>③ フレイル予防普及啓発のイベント時に、アンケートやヒアリングを行い、満足度や関心度を確認する。</p>
実施結果	<p>① 自主グループの支援</p> <p>1- 自主グループ交流会を開催した。(11 月開催、15 グループの担い手 17 名参加、4 年連続 4 回目の開催) 自主グループ交流会事前アンケートでは、自主グループの活動を行うことで、できなかった運動ができるようになった、明るくなったと感じている人は 20%、物忘れが減ったと感じている人は 15% (複数回答) だった。終了後のアンケートでは、17 名中 16 名が「参加してよかった」と回答、満足度は 94% と高かった。</p> <p>2- 通いの場立ち上げ支援を新たに 1 ヶ所実施した。(ハッピー北公園) またそれぞれの自主グループの実情に合わせて、活動の継続支援、再開支援を実施した。</p> <p>自主グループ立ち上げを目的に、ウォーキングイベント「荒川河川敷歩こう会」を 4 回シリーズで開催。11 月 10 名、12 月 11 名、1 月 8 名、3 月 12 名 (延べ 41 名) 参加。</p> <p>ハッピー北公園・荒川河川敷歩こう会については、自主グループ活動の効果を継続的に見ていくため、3 月に体力測定会を実施した。21 名参加。今後定期的に体力測定を実施していく予定である。</p> <p>自主グループに介護予防ミニ講座を開催、29 回。</p>

	<p>3-運動の場リーフレットを10月改訂、300部発行。自主グループへアンケート（15グループ）では、「リーフレットを見て参加した人がいる」との回答が2グループあった。</p> <p>② 男性の交流の機会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東白鬚公園歩いて健康史跡めぐり」（東京都公園協会主催・5月開催）にリハビリ専門職とともに協力した。20名参加（内男性15名）、内16名が「また参加したい」と回答、「墨田区の歴史をもっと勉強していきたいのでまた史跡めぐりを企画してほしい」などの声も多く、男性の交流の良い機会となった。</li> </ul> <p>③ 地域住民向けイベントでの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の事業について、自主グループなどに周知を行った結果、3か所の自主グループなどから希望があり、フレイル予防（栄養と口腔ケア）について普及啓発を行った。</li> <li>・地域住民向けイベント「梅若まつり」（シルバープラザ梅若主催・10月開催）でリハビリ専門職による「腰痛膝痛予防体操と元気になる話」を実施、フレイル予防について普及啓発を行った。申込開始直後から問い合わせ・申し込みが入り早期に定員に達した。当日25名参加。満足度アンケートでは、「とてもよかった」「まあよかった」15名（アンケート回答者中100%）と、満足度が高かった。また展示にて自主グループとボランティアの情報提供を行った。</li> </ul>
<p>成果（到達点の達成）</p>	<p>① 自主グループの支援</p> <p>1-自主グループ交流会のアンケートを通じて、自主グループ活動が、主観的ではあるが担い手のフレイル予防につながっていることが分かった。また活動の中心的役割を担う住民同士の横のつながりが自主グループ活動の継続に有効であることが分かった。</p> <p>（事例）令和3年度立ち上がり、運営に悩んでいた自主グループが、4年度立ち上がったグループの相談にのったり相互に見学に行くなど、グループ同士の横のつながり、相互に支え合う関係ができています。</p> <p>2-通いの場は130ヶ所（令和3年度127ヶ所）となり増えている。</p> <p>「荒川河川敷歩こう会」終了後アンケートを実施、参加者は全員自主化に賛成の意向があり、ヒアリングでもウォーキングの継続に意欲的だった。役員候補もいるため、令和5年度自主グループ「荒川リバーサイドウォーキング」として自主化予定。</p> <p>通いの場が少ない地域（東向島4丁目、墨田4丁目）での立ち上げ支援ができています。</p> <p>② 男性の交流の機会</p> <p>「東白鬚公園歩いて健康史跡めぐり」では、男性高齢者のニーズ把握につながった。令和5年度も引き続き男性の交流の機会や居場所が増えることを目指す。</p> <p>③ 地域住民向けイベントでの普及啓発</p> <p>「梅若まつり」では講座への満足度も100%と高く、フレイル予防に関心が高い住民が多いことがうかがえた。令和5年度の開催につなげていく。</p>

Nプロジェクト～認知症を認知しよう～		施策の方向性：1, 2, 3, 4
課題（現状）	<p>○認知症高齢者数（1,313人）が区内で最も多く、また増加率（9.9%）が高い。（令和元年ワークショップデータ）</p> <p>○居宅介護支援事業所の移転、閉鎖等で事業所数が減少している。</p> <p>○Nプロジェクトやイスからつながるプロジェクト等を通じて、地域連携や医療と介護の連携、事業所同士の交流が進んでいる。</p>	
	到達点	<p>① 認知症について正しい知識を持ち、適切な接し方ができる。住み慣れた地域で暮らせるような仕組みづくりが促進している。</p> <p>② 認知症に関するネットワークが広がる。</p> <p>③ 専門職の認知症対応力のスキルアップを目指す。</p>
4年度の取り組みの指標と方向性	投入資源（人・場所等必要な資源）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者支援総合センター職員3名、高齢者みまもり相談室職員1名</li> <li>・ Nプロジェクトメンバー、認知症サポーター、ボランティア</li> <li>・ 本人・家族・支援者が集う場、普及啓発イベント会場…シルバープラザ梅若等</li> <li>・ 会場費、講師謝礼、チラシ等印刷代等</li> </ul>
	活動（4年度の取組内容）	<p>① 地域住民向けの普及啓発事業の企画運営をする。…「知る」「予防する」「支える」の視点 普及啓発イベント（地域住民向け）・認知症サポーター養成講座 3回</p> <p>② 地域住民や医療・介護・福祉関連機関が参加するNプロミーティングを開催する。特に、地域の担い手の参加を働きかける。…「支える」「つながる」の視点 ・ Nプロミーティング 8回（オンライン開催含）</p> <p>③ 医療・介護・福祉職への研修を実施しスキルアップを図る。…「相談する」「支える」「つながる」の視点 ・ 研修（専門職向け）1回</p>
	活動に対する実績の指標	<p>① -1 普及啓発イベントや認知症サポーター養成講座の回数、参加者数 2 「認知症になっても安心して暮らせるまち」と感じた人数、割合</p> <p>② Nプロミーティングの開催回数、参加人数、参加者のネットワークの広がり（様々な属性の人が参加したか）</p> <p>③ 研修の開催回数、参加人数、理解度・活用度</p>
	結果の評価方法	<p>① -1 普及啓発イベントや認知症サポーター養成講座後アンケートを行い、理解度を確認する。 2 普及啓発イベント後アンケートを行い、「認知症になっても安心して暮らせるまち」と感じた人数、割合を確認する。</p> <p>② Nプロミーティング出席者のネットワークの広がりを確認する。</p> <p>③ 研修後アンケートを行い、理解度・活用度、実際の活用事例を確認する。</p>
実施結果	<p>① 地域住民向けの普及啓発事業の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Nプロミーティングにて、認知症当事者や家族等の不安の解消や早期発見、治療につなげるために「ものわすれ相談会」の実施を検討し、7月と1月に実施した。両会とも募集人数枠を満たし、全9組の当事者や家族へ対応を行った。専門職による助言を行うことで、会の目的を果たすと共に、地域の生の声を聞く機会につながった。アンケート結果（11名回答）では、11名が「とても良かった」「良かった」と回答、満足度が高かった。</li> <li>・ Nプロメンバーから「高齢者の耳の聞こえが認知症進行に直結する」「高齢者の補聴器の悩み</li> </ul>	

		<p>は多い]「専門職としても補聴器の事を詳しく分からない」と意見が出された。そのため、地域住民向け普及啓発事業、また医療・介護・福祉職への研修の一環として、メンバー内の言語聴覚士に講師を依頼し、補聴器も展示した「耳のきこえ」講演会を行った。20名（内、専門職3名）参加。認知症と難聴の関連や補聴器の選定、区の補助事業などを盛り込んだ講義と実際の補聴器の展示や相談コーナーを設けた。アンケート結果（18名回答）では、17名が「とても良かった」「良かった」と回答、また8割が「とても理解できた」「理解できた」との回答で、満足度、理解度は高かった。</p> <p>② ネットワークづくりのためのNプロミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Nプロ定期ミーティング11回開催、延べ58事業所、延べ64名参加。</li> <li>・各回平均5事業所の参加、実参加事業所8カ所。</li> <li>・参加事業所は、居宅介護事業所が多く、通所介護事業所や訪問介護事業所の参加も見られた。</li> </ul> <p>③ 医療・介護・福祉職のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「耳のきこえ」講演会に専門職3名が参加した。</li> <li>・ものわすれ相談会では、Nプロメンバーの専門職9名（介護支援専門員、看護師、介護福祉士、言語聴覚士等）が相談対応をした。</li> </ul>
成果（到達点の達成）		<p>① 地域住民向けの普及啓発事業の開催</p> <p>1－普及啓発イベントでアンケートを行い、8割の方が「とても理解できた」「理解できた」との回答があり、一定の理解は得られた。</p> <p>ものわすれ相談会の後、認知症疾患医療センターでの確定診断の予約につながったケースも多かった。相談会参加後のモニタリングは令和5年度以降行う。</p> <p>2－「認知症になっても安心して暮らせるまち」と感じている方は34%で、「わからない」と回答した方は52%だった。区民一人ひとりの認知症理解は得られたが、地域全体の「安心なまちづくり」への働きかけは継続して必要である。</p> <p>②③ Nプロミーティング及び専門職のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Nプロメンバー（15事業所）へ年度末アンケートを実施し14事業所より回答を得た。すべての事業所が、令和5年度もNプロミーティングに参加したいとの意向だった。Nプロミーティングや事業により、「地域の課題への気づき」は6割近い事業所があったと返答。自身のスキルアップについても、6割近い事業所があると返答した。「地域とつながるということがどういふものかを知るきっかけとなっている」「ためらっている方々の『声』を知ることができ、ご家族様、ご本人様への接し方に幅ができた」「他職種や他事業所の方との交流もはかれて大変有意義な経験になっている」との意見があり、スキルアップやネットワークの広がりにつながった。</li> </ul>

人生会議～もしものための話し合いをしよう～		施策の方向性：4
課題（現状）	<p>令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査によると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人生の最終段階について話し合っていない人が多い。</li> <li>○高血圧、糖尿病、脳卒中等に罹患している人が多い。</li> </ul>	



4年度の取り組みの指標と方向性	到達点	<p>① 自分の終末期について考え、人生の最終段階について話合う人が増えている。</p> <p>② 在宅療養に関するネットワークが拡充し、医療・介護の連携体制が強化されている。</p> <p>③ 地域住民や医療・介護・福祉関連機関等に救急医療情報キットの周知が広がっている。</p>
	投入資源 (人・場所等必要な資源)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者支援総合センター職員 3名、高齢者みまもり相談室職員 1名</li> <li>・ 地域住民、地域団体、自主グループ、医療・介護・福祉関連機関等</li> <li>・ シルバープラザ梅若 ゆうゆう館 (会議室、ホール等)</li> <li>・ 推進会議、ミーティング、勉強会、講座等に係る備品や消耗品費</li> </ul>
	活動 (4年度の取組内容)	<p>①-1 地域住民向けに「終活」「人生会議」の講座を行う。(年1回)</p> <p>2 「わたしの思い手帳」、もしバナゲーム、エンディングノート等ツールを使った勉強会を開催する。(年1回)</p> <p>②-1 医療・介護・福祉の多職種が参加する在宅医療に関する情報交換会・事例検討会を開催する。(年1回)</p> <p>2 在宅療養や人生会議に関するケアマネジャー研修を開催する。(年1回)</p> <p>③ 交流・集いの場や医療・介護・福祉関連機関等に対し、救急医療情報キットの普及啓発を行う。(年6回)</p>
	活動に対する実績の指標	<p>① 講座、勉強会の回数、参加者数、周知度</p> <p>② 情報交換会やケアマネジャー研修後、アンケートにて「理解した」「活用できる」「ネットワークが広がった」人の割合、活用事例</p> <p>③ 救急医療情報キット普及啓発の回数、配布数、活用事例</p>
	結果の評価方法	<p>①-1 講座、勉強会終了後アンケートで周知度、理解度を確認する。</p> <p>2 人生会議を行った人の事例報告。</p> <p>② 情報交換会やケアマネジャー研修後、アンケートで確認する。ケアマネジャー研修については、年度末に実際に活用できたか、また事例を確認する。</p> <p>③ 救急医療情報キットの活用状況や事例をヒアリングする。</p>
実施結果	<p>① 地域住民向け講座</p> <p>1-「エンディングノート講習会」(9月開催)では、地域住民 15名参加。エンディングノート作成について「とても理解できた」「理解できた」が計94%、「作成をしてみたいと思うか」は100%であった。既に作成経験のある参加者からの具体例などを聞く機会にもなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主グループに対し、在宅療養ハンドブックを使用し在宅療養や人生会議に関するミニ講座を開催。12月、8名参加。</li> <li>・「終末期の法制度講座(講師:弁護士)」(2月開催)では、地域住民 3名参加。成年後見制度や死後事務等について学んだ。終末期の法制度への理解について、「とても理解できた」「理解できた」が100%だった。</li> </ul> <p>2-「わたしの思い手帳勉強会」(9月開催)では、民生委員・児童委員、見守り協力員、医療・介護・福祉専門職等 11名参加。アンケートでは「とても理解できた」「理解できた」が計100%、また「今後参加者自身が伝達(研修講師)できると思うかとの質問については「自分で伝えることができる」「今回参加した人と一緒なら伝えることができる」が計91%であった。</p> <p>② 在宅療養や人生会議に関するケアマネジャー等への研修</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修「みんなで考えよう！在宅療養」（包括的・継続的ケアマネジメント支援に前掲）</li> </ul> <p>③ 救急医療情報キットの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネ研修 3 回、自治会 1 回、自主グループ 1 回、イベント（エンディングノート講習会）1 回で救急医療情報キットのミニ講座を行った。他、実態把握調査、総合相談、担当者会議等含め、81 個配布。シートの情報更新や作成支援の推進ができた。</li> </ul>
成果（到達点の達成）	<p>① 住民等への普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会等のアンケートでは、理解度は高く、普及啓発につながっている。</li> <li>・「わたしの思い手帳勉強会」（地域住民や民生委員・児童委員、医療・介護・福祉専門職参加）では、9 割の人が伝達研修の講師に対して、「自分で伝えることができる」「今回参加した人と一緒に伝えることができる」と答えている。今後は小グループ単位での勉強会や、講座参加者が通いの場や自治会等で研修講師ができるような働きかけを検討する。</li> </ul> <p>② 在宅療養に関する連携体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー研修の年度末アンケートでは多職種との連携ができたとの意見があり、連携強化につながっている。（包括的・継続的ケアマネジメント支援にて前掲）</li> </ul> <p>③ 救急医療情報キットの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度ニーズ調査において、「持っており活用している」が 6.9%（区 4.8%）と 8 圏域で一番高かった。総合相談やケアマネジメントで作成したケースでは「在宅生活に安心が得られた」との回答があった。</li> </ul>

<b>いのちを守るネットワーク事業</b>		施策の方向性：1, 2, 5
課題（現状）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住居の老朽化のため、住宅改修や福祉用具の利用が難しい場合がある。</li> <li>○高齢者（特に身寄りのない独居高齢者）の転居の場合、物件を探したり、手続きをすることが難しい場合がある。</li> <li>○「地震時などに著しく危険な密集市街地」に該当する地域が多く、また水害による被害率も高い。</li> <li>○令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、災害時や火災などの緊急時に一人で避難できる人は 64%である。</li> <li>○避難訓練には、災害時に地域の担い手になれる世代の参加者が少ない。</li> </ul>	
4 年度の取り組みの指標と方向性	到達点	<p>① 防災に関する地域ケア推進会議等により、地域、防災関係者、医療・介護・福祉関連機関等のネットワークの構築が進み、高齢者の防災に関する課題が共有されるとともに、平時の見守りネットワークの強化につながっている。</p> <p>② 住まいに関する地域ケア推進会議等により、住まいに関わる関連機関のネットワークが拡充し、高齢者の住まいに関する課題が共有されている。</p> <p>③ 住まいや防災・減災の普及啓発が進み、高齢期になっても住み続けられる住まいの整備が進む。</p>
	投入資源（人・場所等必要な資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者支援総合センター職員 2 名、高齢者みまもり相談室職員 1 名</li> <li>・ 地域住民、町会・自治会、医療・介護・福祉関連機関、消防署等防災関係者、住まいに関わる関連機関、「すみだの巣づくりプロジェクト（防災遠足）」等</li> </ul>

	源)	・ シルバープラザ梅若等
	活動（４年度）の取組内容)	<p>①－１ 防災に関する地域ケア推進会議を開催する。  2 地域の防災訓練に医療・介護・福祉専門職が参加するよう働きかけ、地域と関係機関のネットワーク強化を図る。  3 防災遠足の後方支援をする。</p> <p>②－１ 住まいに関する地域ケア推進会議を開催する。  2 不動産事業者や貸主に対して、高齢者に住宅を貸す際の課題についてのアンケートやヒアリングを行う。</p> <p>③－１ 地域住民向けに住まいや防災に関する講演会を行う。  2 「住まい・防災チェックシート」（うめわか高齢者支援総合センター作成）の実施。</p>
	活動に対する実績の指標	<p>①－１ 防災に関する地域ケア推進会議の回数、参加者数、ネットワークの広がり（様々な属性の人が参加したか）、会議内容  2 地域の防災訓練への参加数、事例  3 防災遠足の内容</p> <p>②－１ 住まいに関する地域ケア推進会議の回数、参加者数、ネットワークの広がり（様々な属性の人が参加したか）、会議内容  2 アンケートやヒアリング数、内容</p> <p>③－１ 講演会回数、参加者数、講演会内容  2 「住まい・防災チェックシート」の実施数</p>
	結果の評価方法	<p>①－１ 防災に関する地域ケア会議でアンケートを行い、課題の共有ができたか、ネットワークが広がったか確認する。  2 地域の防災訓練に参加した医療・介護・福祉専門職及び防災訓練主催者へのヒアリングを行う。</p> <p>②－１ 住まいに関する地域ケア会議でアンケートを行い、課題の共有ができたか、ネットワークが広がったか確認する。  2 住まいに関する関連機関と医療・介護・福祉関連機関の連携事例報告。</p> <p>③ 講演会でアンケートを行い、住まいや防災への関心や周知度を確認する。</p>
実施結果	結果（事業の実績）	<p>① 防災</p> <p>1－防災に関する地域ケア推進会議（1月開催、18名参加）  ・町会・自治会 8名、医療機関 1名、介護・福祉関連機関 5名、墨田区防災課等参加。  各町会による防災についての取り組みの発表やグループワークを実施した。</p> <p>2－地域の防災訓練に医療・介護・福祉専門職が参加するよう働きかけ、地域と関係機関のネットワーク強化を図るとしてはいたが、コロナ禍の影響で、地域の防災訓練が縮小していたため、次年度以降参加できるよう働きかける。</p> <p>3－「防災遠足」（すみだの巣づくりプロジェクト主催・9月開催）後方支援。参加者 60名。  鐘ヶ淵駅出発のルートでは、多聞寺、たもんじ交流農園、防災団地、東白鬚公園をゴールに街歩きを行った。NPO 法人等関係機関や地域住民の協力得て、防災の備えやうめわか圏域</p>

		<p>の歴史や地域を学んだ。</p> <p>② 住まい</p> <p>1 – 住まいに関する地域ケア推進会議（9月開催、10名参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の住まいに関わる関連機関（不動産業者、民生委員・児童委員、居宅介護支援事業所、墨田区住宅課）が参加。「高齢者の住まいに関するアンケート」報告及び『孤立死』をテーマにグループワークを行った。</li> </ul> <p>2 – 住まい不動産業者を対象とした、「高齢者の住まいに関するアンケート」（6月実施、7社に配布し6社より回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問①「高齢者に住宅を提供することのリスクとそれを回避するために必要と思われること」について、孤独死、認知症等による意思能力の喪失、経済的な問題による家賃滞納、保証人がいないといったリスクがあるとしており、リスクの回避については、賃料持参のための月1回直接来所してもらう、入居時の火災保険（死亡時保証付き）加入等が挙げられた。質問②「高齢入居者の見守りに関するネットワーク構築の必要性」については、6名全員が必要と回答、ネットワークで関係性を築きたい機関としては、介護事業所、区役所、センター・相談室、民生委員・児童委員、医療機関等が挙げられた。アンケートにより、不動産業者の高齢者の住まいに関しての意識や課題と感じている点について確認することができた。</li> </ul> <p>③ 住まいや防災・減災の普及啓発</p> <p>1 – 防災の講演会「住民向けの防災（水害、マイタイムライン）に関する講演会」の実施。（1月開催、14名参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害に備えよう！作ろう！マイタイムライン」と題し、墨田区防災課による講義とマイタイムラインの作成を行った。「住まい・防災チェックシート」を用いて、区の施策（家具転倒防止・ガラス飛散防止フィルム等）の周知をした。</li> </ul> <p>2 – 福祉機器展示室研修会（包括的・継続的ケアマネジメント支援にて前掲）</p>
成果（到達点の達成）		<p>① 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する地域ケア推進会議終了後のアンケート（18名中12名回答）では、①会議は今後の防災活動・対策に役立つと思うか「とても役に立つ」「役に立つ」が11名、②会議が災害時・平時のネットワークづくりにつながるかについて「とてもそう思う」「思う」が9名、③町会・自治会の実情を理解することができたか「よくできた」「できた」が9名だった。また今後防災に関して話し合いたいテーマについては、町会・自治会からは「各町会のつながり」「近隣の町会の具体的な活動」があげられた。事業所からは、「町会主催の防災訓練に積極的に参加したい」「防災訓練を利用者とともに行いたい」との意見が出た。地域団体と医療・介護・福祉関連機関とのネットワーク強化と顔の見える関係構築につながった。また参加した事業所からは町会による地域の防災訓練に積極的に参加したいとの意見が多く聞かれ、今後防災訓練を通してネットワークを拡充していく。</li> </ul> <p>② 住まい</p> <p>1 – 住まいに関する地域ケア推進会議終了後のアンケート（10名中9名が回答）では、①会議に参加して「とてもよかった」「よかった」が9名、②会議に参加して新しい情報が「大いに得られた」「得られた」が9名、③今回のような会議が高齢者の住まいの問題に関するネットワーク</p>

		<p>構築につながるかについては「つながると思う」「どちらかというつながると思う」が 8 名、④ネットワーク構築のために何が必要かについては「集まる機会が必要」「住宅・福祉・不動産・介護等各業界の課題や解決策を共有し合うことで新たな方策が生まれるかも知れない」といった意見聞かれた。顔の見える関係づくり及びネットワーク構築、地域における高齢者の住まいに関する現状の共有及び課題の抽出につながった。</p> <p>2 – 不動産事業者へのアンケートや地域ケア会議を通じて、高齢者に住宅を貸す際の課題について共有ができた。</p> <p>③ 住まいや防災・減災の普及啓発</p> <p>1 – 地域住民向け防災に関する講演会終了後のアンケートでは「とてもよかった」「よかった」100%の回答を得た。また「とても参考になった」「普段からの準備が大事ということが判った」との意見があった。満足度は非常に高く、普及啓発につながった。</p> <p>2 – 専門職向け福祉機器展示室研修会では、高齢期になっても住み続けられる住まいづくりのために、専門職のスキルアップにつながった。</p>
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------